

かん た き
看多機(看護多機能型)を
知っていますか？
— “いつもの暮らし”を支えるために—



生きるを、ともに、つくる。

公益社団法人 日本看護協会

慣れ親しんだ家で過ごしたい—— その願いを看護と介護の連携で支えます。

自宅で穏やかに過ごすことは、
多くの人の願いではないでしょうか。

今、求められているのは、病気をかかえていても
医療と介護の専門家の目が行き届く環境で、
その方にとっての“いつもの暮らし”ができる仕組みです。

しかし、現状では病院で最期を迎える方が多く、
“家で具合が悪くなったら病院しか行き場がない”
“家族が介護できなくなったらどうするの？”という声も耳にします。

そうした課題に対応するための仕組みが
「看護小規模多機能型居宅介護(看多機)」という介護保険サービスです。

通所・宿泊のサービスと、訪問介護・訪問看護のサービスを
組み合わせることで、医療ニーズの高い方が、慣れ親しんだ地域と家で、
身近な人に囲まれて暮らし続けることをサポートします。



看多機の特徴と魅力

●医療ニーズの高い高齢者の在宅療養を支えます

看多機には在宅療養を支える4つの特徴・魅力があります。

① サービスが一体なので安心

利用者は、家に近い環境で、顔なじみの職員から、「通い」「泊まり」「訪問看護」「訪問介護」の4つのサービスを一体的に受けられるため、安心です。

② 利用料は月定額制が基本なので安心

看多機の利用料は、要介護度に応じた月定額制です。利用頻度や回数による増減はなく、介護費用がふくらみすぎないので安心です（ただし宿泊や食事に関する費用などは別途）。

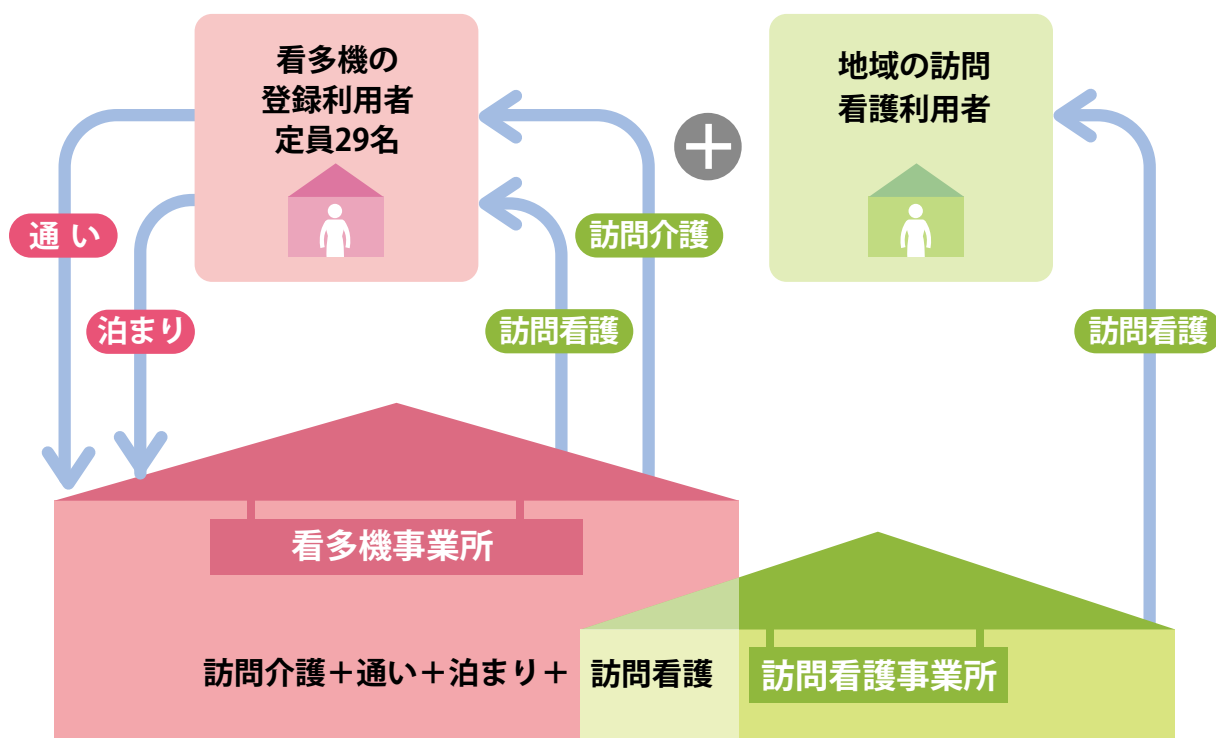
③ 医療ニーズの高い方でも安心

高度な医療が必要な人にも対応することにより、人生の最期まで、住み慣れた自宅等で暮らせるように支えます。

④ 柔軟にサービスを変更できて安心

利用者や家族の状況が変わった場合も、看多機のケアマネジャーが、通い、泊まり、訪問看護・介護を臨機応変に組み合わせ提供できます。急な「泊まり」や、夜間の訪問看護・介護に対応できるため、利用者・家族にとって安心です。

図1 4つのサービス体系と対象者



〈看多機で対応できる医療処置の例〉

- 医療機器を利用している方 …… 胃ろう・気管切開などの管理、カテーテル類の交換
- リハビリが必要な方 …… 飲み込みの訓練、車いすへの移動、歩行の訓練、排泄の自立
- 褥瘡(床ずれ)などがある方 …… 創傷の処置、悪化の防止
- 認知症の方 …… 生活リズムの調整、認知症状への看護や介護相談
- 終末期の方(がん、老衰など) …… 苦痛の緩和、精神的な支援、看取り
- ご家族や介護者の方 …… 医療機器の取り扱いや介護の相談・指導、精神的な支援

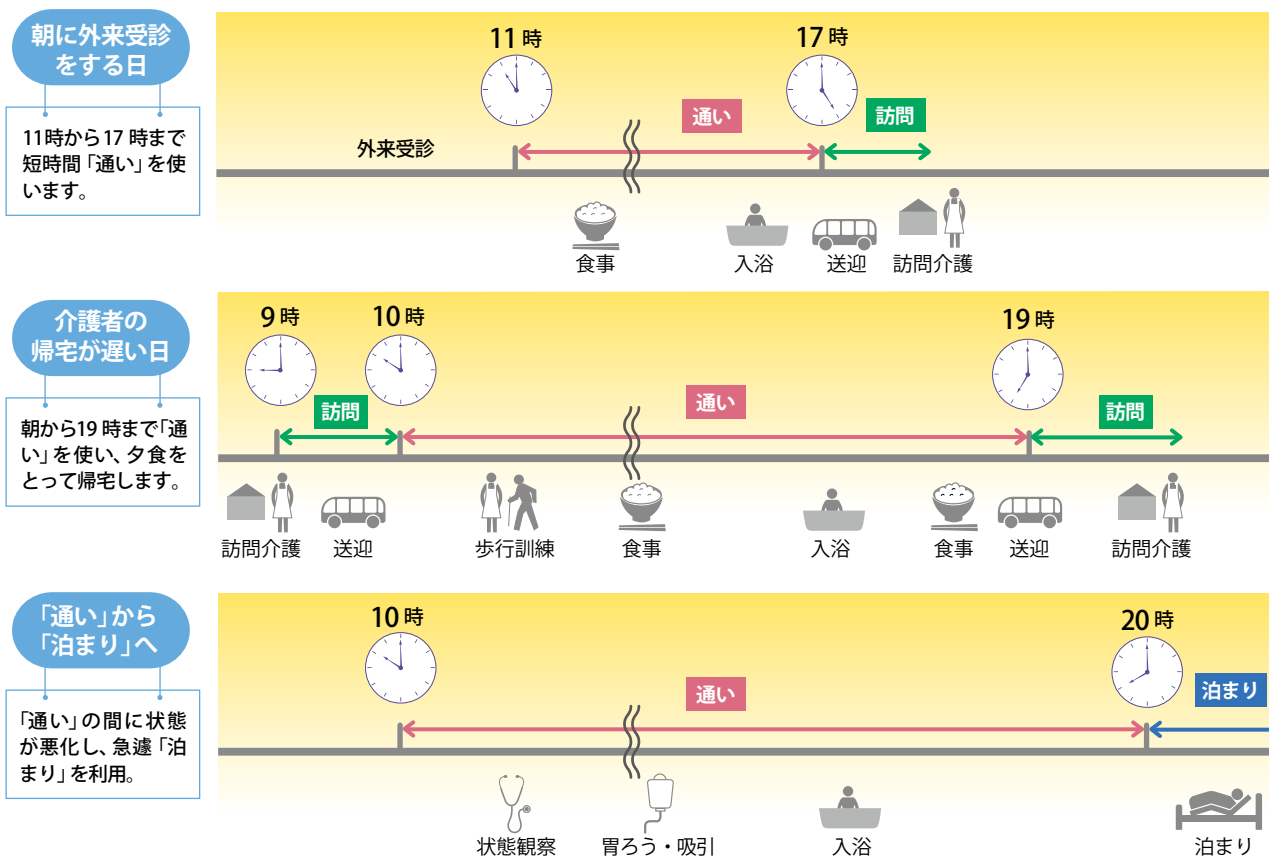
実例から知る看多機のサービス

● 個々の利用者に合わせて自由にサービスを組み合わせられます

看多機では、事業所の営業時間に利用者が都合を合わせるのではなく、個々の利用者の予定や体調に合わせてサービスを提供します。例えば、「通い」の時間の長さや、その間に受けるケアの内容も一律ではありません。

図3 さまざまな利用パターン

※「通い」「泊まり」のサービス提供時間は、事業所により異なります。



看多機利用者とスタッフの声

● 具合が悪くなったときに泊まりで看てもらえるのは家にいるより安全で助かります。これまではそうした場合には、入院するしかありませんでした。

(利用者家族)

● 何かあったら看護師さんにすぐ電話して何でも聞けるので、助かります。夜間や土日に家にいるときも、安心です。

(利用者家族)

● 常に顔なじみのスタッフが対応することで利用者さんが安心感を得られると、認知症のBPSD(周辺症状)による暴力や徘徊が改善するケースがあります。(看護職員)

● 「通い」や「泊まり」で栄養や美味しさ・食べやすさに配慮した食事を提供すると、家ではあまり食べない方も完食して下さることが多く、体調も整ってきます。

(看護職員)